



中国センター特集

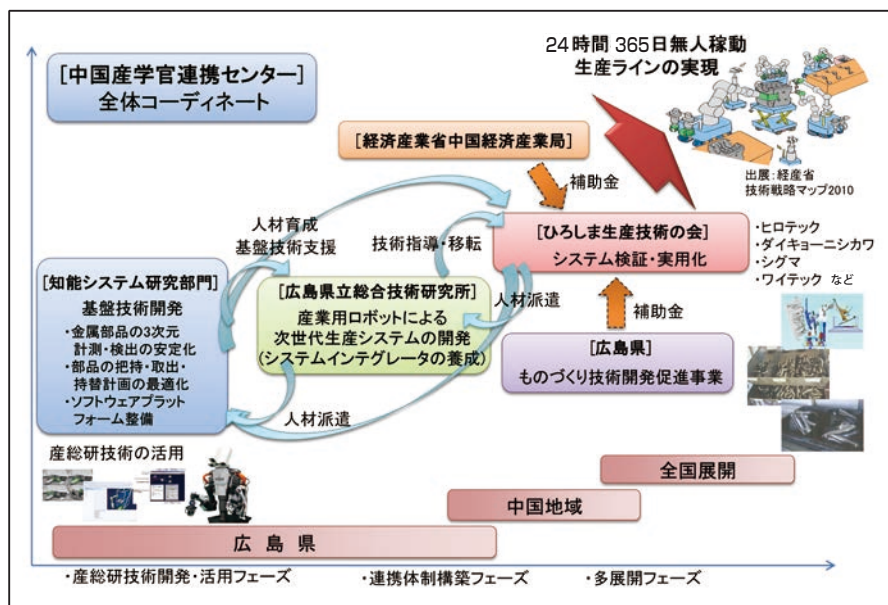
中国地域のオープンイノベーションハブを目指して

はじめに

産総研は、持続可能な社会の構築に向けて、これまでに培ってきたさまざまなコアコンピタンスを活用して、グリーン・テクノロジーによる豊かで環境に優しい社会の実現とライフ・テクノロジーによる健康で安全な生活の実現を目指しています。そのためのオープンイノベーションプラットフォームを提供することを旨とし、地域センターは、地域の技術的特性やニーズを踏まえた分野に重点化し、世界最先端の研究で世界をリードするとともに、地域イノベーションハブとして、オール産総研のポテンシャルを活用して、地域の産業・経済を発展させることが求められています。

オイルリファイナリーからバイオマスリファイナリーへ

中国センターに課せられた研究の重点化は「バイオマスリファイナリー技術」であり、2012年4月1日に、前身のバイオマス研究センターで培ってきた研究成果を基に、木質系バイオマス資源をケミカル原料、高性能複合材料、液体燃料に効率よく変換するための基盤技術を確立する研究拠点として、バイオマスリファイナリー研究センターが発足しました。産総研の他の研究ユニットとも連携しながら、成分分解から製品製造まで一体的な研究開発を進め、これまでのオイルリファイナリーからバイオマスリファイナリーへの基盤形成のための研究開発を活発に進めています。



連携事例：中小企業支援のためのランダムピッキングロボットシステムの開発

地域イノベーションハブ機能の強化

中国地域には、鉄鋼、化学などの基礎素材型製造業や輸送機械などの加工組立型産業が集積しています。

中国センターは、2012年1月に「産総研中国センター友の会（産友会）」を立ち上げました。中国地域の上記ものづくり産業を支える企業とのネットワークを構築し、研究開発マインドのある企業との連携を強化するためです。連携の一例を紹介すると、2012年11月に開催した「産総研本格研究ワークショップin広島」の基調講演で、産友会のメンバーから、バラ積みの部材を認識して24時間365日フル稼働で自動車部品を生産するシステムの開発を要望されました。中国産学官連携センターは、産業技術連携推進会議などで活動をともにしている広島県立総合技術研究所と産総研つくばセンターの

知能システム研究部門をコーディネイトして、産総研戦略予算「中小企業支援のためのランダムピッキングロボットシステムの開発」プロジェクトをプロモートし、ひろしま生産技術の会のメンバーとも緊密に連携しながら、戦略的な研究開発を推進しているところ（図）。

このように、中国センターは、中国地域企業発のイノベーション創出に向けて、中国経済産業局や公設研とも連携して、顔の見える活動を精力的に展開しています。今後ともさらなるニーズ把握と連携強化に努めていく所存ですので、いつでも気軽にお声かけいただければ幸いです。

中国センター
所長
なかむら おさむ
中村 修